

きりん V.G 概輪だより

会報第24号
発行日 平成18年9月30日
発行・編集 V・G 概輪
代表者 大岡成一
http://web3.ibj.co.jp/~kirin/

わがまち紹介

自然と開発の調和を問う

成合地区

1. 成合地区

成合地区は、JR高槻駅の東北はるか丹波まで連なっている山並みの麓の、小さな盆地で、檜尾川上流一帯に位置する。地内に能因法師の桜で有名な金竜寺がある。

天保年間(1830~1843)には綿作がおこなわれており、慶応2年(1866)には、富田紅屋酒造株引分け人の酒屋1軒があり50石造っている。

江戸期〜明治22年の村名は成合村で約三百石余りで、高槻藩領70石余り、金竜寺領30石余りとなっていた。産物は、米・麦・野菜のほか薪・松茸・スパイ(素灰)を淀川筋道齋浜まで出荷していた。

2. 檜尾川

檜尾川は高槻市域を流れる河川としては芥川に次ぐ流路延長(12・2km)と流域面積を有する。その水源はポンポン山山塊東部の本山寺南方尾根に発し、神峰山寺南方の川床標高120m付近までは平均勾配約10分の1という急流をなして南南西流するV字谷を刻

んでいるが、成合谷の南端で、安満山と紅茸山との間の狭隘部を南北方向に切って淀川低地に顔を出した檜尾川は、そこで急に水路を南東へ変え、安満山の南麓に沿って山手町と萩之庄との境界まで山麓線に沿って曲流したのち、ふたたび流路を南に転じて前島町の南方で淀川に合流している。



檜尾川流路の人工的改変

この安満山南麓沿いに曲流する檜尾川の現流路はほぼ等高線に平行しており、本来等高線を切って流れる性質を有する河川の流路としては、きわめて不自然な様相を呈している。高槻市は、檜尾川については1時間雨量50ミリには対応済で、檜尾川も芥川もいわゆる天井川で川床に砂が堆積し、より浅くなるのを防止するため、現在、檜尾川上流に砂防ダムに取り組んでいるとのこと。

3. 成合春日神社

応永(1394~1428)年中まで、成合の春日神社は社領もあり、近郷近在の春日社の本社としての社格を保ち、近郷75郷にわたって住民の崇拜を集めて神事祭祀が勧められていた。春の祭礼には能5番が演じられ、さらに秋11月の初申の日には能3番が奉納されるという荘厳華麗なものであったという。

4. タチソ

成合村の北のはずれ、西檜尾川の左右の山腹に、「タチソ」は計画されました。タチソは太平洋戦争末期に計画された旧陸軍の暗号で、高槻の夕、地下のチ、倉庫のソです。昭和19年(1944)の7月7日、マリアナ諸島のサイパンが陥落し、守備隊3万人と住民1万人が戦死または自決しました。日本全土への空襲の危機が迫ったのです。これに備えるため、全国に地下軍事施設をつくるのが、7月18日の東条英機内閣最後の閣議であわただしく決められました。



この工事に動員された労働者は、地元村民、高槻医専・北野中学・関西工業学校などの動員学生のほか、

最も危険なトンネル開きく分野については韓国人労働者が投入され、その数3,500人とも言われています。その他滋賀県の土倉鉱山の労働者も動員された模様です。



5. インターキ定地

平成17年4月より高槻JCTより西の区間について設計協議が開始されている。設計協議とは、日本道路公団が高速道路の構造について説明し、関連する道路、河川、水路等の交差の方法や、施行区分維持管理区分等の考え方について、市と協議するものです。06年2月に開かれた国土開発幹線自動車道建設会議(国幹会議、国土交通大臣の諮問機関)で、建設の是非が焦点となっていた第一名神の「抜本的見直し区間」(天津―城陽、八幡―高槻の二区間、計35km)の扱いが先送りされた。

近隣の高速道が開通する3年後を待って交通状況を検証し、建設か中止かの判断をする方針だ。しかし、国土交通省などは整備に前向きな姿勢を崩しておらず、道路公団改革前に計画された全国9,342kmの高速道は結局、全線が実現する方向となった。(神戸新聞)

10月度行事予定

“隠れキリシタンの里：千提寺地区”

月 日：平成18年10月19日(木)
集合場所：阪急茨木市駅(北口)バス停
8：45集合
交通案内：阪急バス 阪急茨木市駅
1―②乗り場8：55発
忍頂寺行き 千提寺口バス停下車

たかつき秋の市予定

市民との交流を深めよう

平成18年10月21日(土)
フリーマーケット出店と
スタッフ活動(10時~15時)
平成18年10月22日(日)
スタッフ活動
出品と参加協力をお願いします。

11月度行事予定

“歴史の里：清水地区”

月 日：平成18年11月16日(木)
集合場所：高槻市宮塚脇バス停
交通案内：高槻市バス JR高槻駅前北塚脇行き ②乗り場
13：06発
塚脇バス停下車(13：20頃)